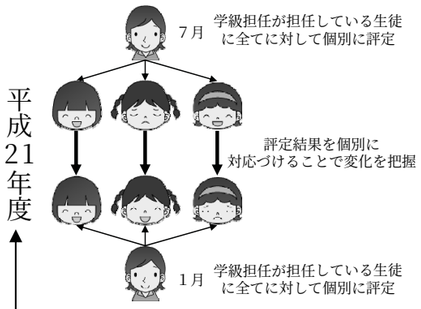
少人数学級導入前後の同一学年間比較

調査対象校種	中学校
調査対象学年	第２学年

- 少人数学級導入前の中学校２年生より，導入後の２年生の方が，学習行動がよくなった生徒の割合が高い学校が多い。
- 少人数学級導入前の中学校２年生より，導入後の２年生の方がクラス替えによる学級経営の土台づくりがよりよくなされた。

調査の枠組み



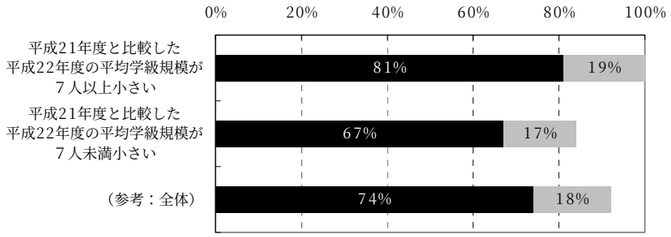
- 平成21年度の２年生の状況と，平成22年度の状況を比較。
- 平成21年度調査の対象校（48校）であり，かつ平成21年度において義務標準法による試算上第２学年の学級数が２学級以上かつ学級あたりの生徒数が34名以上であり同法に即した学級編制を行った学校（40校）のうち，平成22年度に調査協力をいただいた学校から，回答方法に不備の見られた学校を除いた34校を対象。

- １学期末より２学期末の方が○○するようになった
- １学期末と２学期末で変わらない
- １学期末より２学期末の方が○○しなくなった

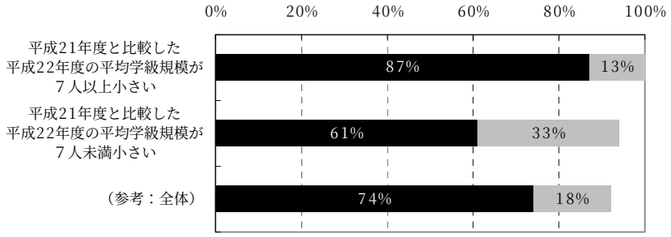
学習行動

結果

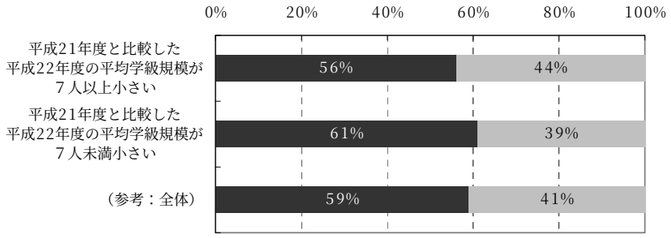
少人数学級導入後の方が「授業中集中」するようになった生徒が多いか



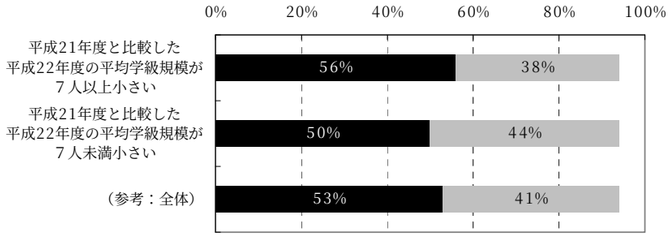
少人数学級導入後の方が「授業に積極的に参加」するようになった生徒が多いか



少人数学級導入後の方が「宿題」をするようになった生徒が多いか



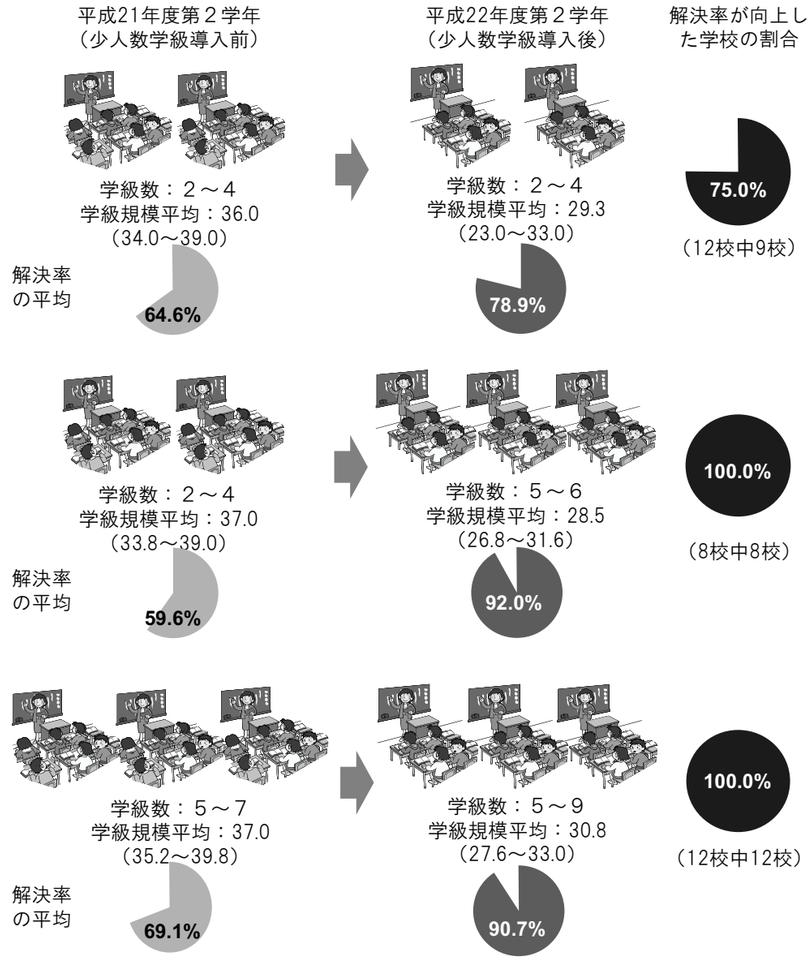
少人数学級導入後の方が「宿題以外の家庭学習」をするようになった生徒が多いか
（塾や通信教育を除く）



■ 当該項目の内容について１学期末から２学期末にかけて向上した生徒の割合が，平成21年度と比較して平成22年度の方が５ポイント以上高い学校

■ 当該項目の内容について１学期末から２学期末にかけて向上した生徒の割合に，年度間で差が見られない（差が５ポイント未満）学校

クラス替えによる生徒指導上・人間関係的問題の解決



考察

- 少人数学級導入前後で比較すると，少人数学級導入後の方が授業中の学習行動，家庭学習の取り組み状況ともに向上する生徒の割合が高い学校が多い。
- 平成21年度の２年生と比較した平成22年度の２年生の学級規模がよりが小さい学校ほど，前年度と比べて授業中の学習行動がよくなった生徒の割合が高い。
- 少人数学級導入前後で比較すると，少人数学級導入後の方がクラス替えによる生徒指導上・人間関係的問題の解決率が高い。
- 学年学級数が５学級以上の学校においては，すべての学校で少人数学級導入後の方がクラス替えによる生徒指導上・人間関係的問題の解決率が高い。

注：同一の生徒集団に対する追跡調査ではないため，平成21年度と22年度を一概に比較することはできないことに留意して結果を解釈する必要がある。